

グラスウール

安全日

グラスウールは、危険なアズベストとは全く異なる

安心してお使いください。

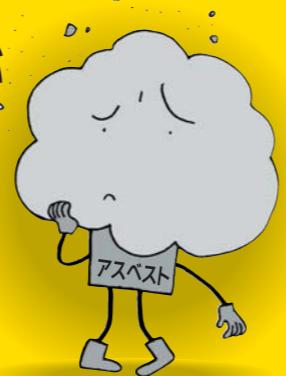
人体に安全な材料です。

グラスウールの安全性について
あなたの質問にお答えいたい



グラスウールの安全性について あなたの質問にお答えいたします。

アスベストによる 健康被害が問題となりましたが グラスウールは 安全でしょうか？



- Q** グラスウールはアスベストとどこが違うのでしょうか？
A グラスウールは体液に溶けやすく、体外に排出されやすいものです。

- アスベストは天然の結晶性鉱物繊維で、直径1ミクロン以下の極めて細い繊維の集合体(束)なので、容易にタテに割れて細くて長い繊維になり、肺の奥深く、肺胞にまで到達してしまいます。生来持つタフさから体内の免疫機能に対する耐性が強く、肺胞等に刺さったまま排出されずに異物として生涯体内に留まり、さまざまな病気を引き起こす原因となります。
- 一方、グラスウールは人工的に製造された非晶質繊維で、折れても繊維の太さが変わりませんので、肺奥まで到達しにくく、仮に到達しても体液に溶け易く、短期間で体外に排出されやすい材料です。
- 遊離珪酸粉じんによって引き起こされる“珪肺病”についても、グラスウールは遊離珪酸を含んでいませんので発病しません。
- ★グラスウールも体内では一般的の粉じんと同じ異物です。取り扱う時には、防塵マスク等の保護具を着用してください。



グラスウールとアスベストは、生まれも、育ちも、性質も、全く違います。

グラスウールは

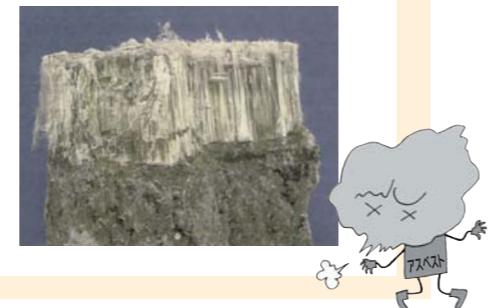
- ▶その原料の85%以上が板ガラスやビンを粉碎したカレットで、それに組成調整用原料を加え溶融・纖維化し、バインダ(結合剤)を加えた工業製品です。
- ▶そのためグラスウールの原料にも製品にも、アスベストが混ざることはまったくありません。



グラスウールの原料となるリサイクルカレット

アスベストは

- ▶地球の自然が造った極めて細かい繊維の束からなる結晶性の繊維状鉱物です。鉱物をほぐすことにより繊維として取り出されます。
- ▶値段が安く、熱・火にも種々の薬品にも強く、また摩擦などにも優れた耐久性を持つことから、車、設備、建築用途をはじめ種々の分野で広く用いられました。
- ▶健康被害が問題となり、現在は原則として製造等が禁止されています。



グラスウールは、歐米をはじめ日本でも半世紀以上にわたって私たちの生活に密着したあらゆる分野で使用されています。その健康安全性については、国際がん研究機関(IARC)で発がん性に分類されない材料として認められています。

●グラスウールの安全性は、これまでグラスウール製品の製造や施工に従事してきた方がたへの大規模な健康追跡調査や実験を通して、世界中で実証されています。

- Q** 発がん性の心配はありませんか？
A ヒトに対して発がん性に分類されないので安全です。

- 通常の作業環境では、グラスウールを原因とした発がん例は確認されていません。
- 物質の発がん性評価で最も権威のある機関、国際がん研究機関(IARC)において、2001年にグラスウールを含む人造鉱物繊維は、“ヒトに対して発がん性に分類されない物質”である<3>に評価されました。
- これは、これまで数十年間にわたり世界中の研究者によって実施してきた膨大な研究・調査に基づいて確認された結論です。

グループ 1	ヒトに対して発がん性がある	アスベスト、たばこなど
グループ 2A	ヒトに対して発がん性でありうる	とても熱い飲み物、レッドミート(ほ乳類の肉)など
グループ 2B	ヒトに対して発がん性の可能性がある	ガソリン、ピクルスなど
グループ 3	ヒトに対して発がん性に分類されない	グラスウール(短纖維)、コーヒー、紅茶など
グループ 4	たぶんヒトに対して発がん性がない	カプロラクタム1品種のみ



※IARCモノグラフ2016年6月現在

- Q** グラスウールが施工された住宅は健康に影響ありませんか？
A ありません。室内環境を汚染することもありません。

- 一度施工されたグラスウールからの再飛散はほとんどありません。
- グラスウールは、シックハウスの原因物質といわれるホルムアルデヒドの放散量が極めて少ないため、室内環境への影響はありません。
- 他にもシックハウスの原因となる揮発性有機化合物4VOC((トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン)の放散量は極めて少ないため、室内環境を汚染することはありません。



Q

触るとチクチクしたり、かゆくなることがありますか…

A

チクチクは物理的な刺激による一過性のものです。

- グラスウールが皮膚の表面に物理的な刺激を与え、一過性のかゆみを感じさせます。まれに皮膚が過敏な方に炎症等を起こすことがあります、グラスウールを取り除くことにより解消されます。
- 不快な刺激を避けるために、加工や施工作業のとき、皮膚をガードする手袋や長袖の着衣、保護メガネや帽子などを使用することをおすすめします。また作業前に保護クリームを塗るのも効果があります。作業後は、石けんと水で皮膚を洗い流したり、目洗いなどを心掛けてください。

グラスウールは、安全で豊かな社会と快適な住まいづくりに、幅広く安心してご使用いただける断熱・吸音・保温材です。



硝子纖維協会

〒169-0073 東京都新宿区百人町3丁目21番16号 日本ガラス工業センタービル

TEL.03-5937-5763 FAX.03-5389-6757

<http://www.glass-fiber.net/>